

2026年07月21日（火）【外為Lab】松田哲

タイトル：【ワールドカップ終了】

サッカーのワールドカップ大会は、スペインの優勝で幕を閉じた。

今回のワールドカップは、大成功であったと、トランプ米国大統領は自画自賛をしたようだ。

しかし、優勝のセレモニーで、スペイン代表がそのトロフィーを掲げる際に、トランプ大統領が表彰台に立ち続けた。

優勝したスペイン代表を褒め称える立場にある主催者としての振舞いとしては、おこがましい行為だった。

トランプ大統領の行動は、自画自賛が多い。

大国の為政者の行いを、評価するのか、評価しないのかを決めるのは、各国それぞれの大衆であって、為政者本人ではない、と考えます。

このワールドカップ大会では、トランプ大統領が、自国の米国選手のレッドカード（退場処分）に介入して、その処分が先送りされることもあった。

振り返ると、トランプ大統領の悪癖が極端に目立ったワールドカップ大会だった。

+++++

さて、ワールドカップが終わったので、マーケット（外国為替市場）に集中するでしょう。

しかしながら、夏休み相場の真っ最中である。

そして、さらに、米国とイランは、6月中旬に停戦の覚書に署名し、最終合意に向かう交渉を行う予定だったのだが、事実上、停戦は破棄されて、米国とイランのそれぞれの攻撃が開始されている。

この状況では、積極的にマーケット（外国為替市場）に参入する訳にはいかない、と考えます。

+++++

通常の年であれば、夏休みは7月4日の米国の独立記念日から始まります。

だから、「夏休み相場」は、すでに始まっています。

ところで、7月8月は基本的には夏休み相場ですが、だからといって取引が無くなるのではなく、それなりの動きはあります。

ポジションを取っておけば儲かりそうに思える展開もあるかも知れません。

しかし、市場参加者が薄いマーケットは、リスクが高い（＝危険）と言えます。

予期しない大きな資金が出入りすると、想像がつかない値動きになり、経験則が通用しないギャンブル相場と化す可能性もあるからです。

通常の状態でも相場は難しいものだと思います。

その難しい中で市場参加者は知恵と経験をフルに使って戦っています。

それでも負けることがあるのに、経験則が生かせない相場に飛び込むのはバカげたことだし、わけも分からない状態で利益を追求する行為が、正しいとは思えません。

夏休み相場に入ったら、他の参加者と同じようにポジションを整理して休み、9月になってマーケットに厚みが戻ってから参戦するべき、と考えます。

皆と同じことをやっていると相場では勝てない——それはその通りですが、皆と同じことをやるほうが良いことも、たくさんある、と考えます。

+++++

「夏休み相場はやらない方が良い」と考えているのは、上述の通りなのですが、ドル／円に関しての基本的な考え方は、変わっていません。

トレンドは「ドル高円安」持続、と考えます。

+++++

米国とイランの攻撃の応酬を受けて、原油価格が急上昇し、米株価も下落した。

原油価格の上昇を理由に、米国の金利も上昇した。

ドル／円の為替レートも「ドル高円安」に反応した。

原油価格の上昇は、日本経済にとってマイナス要因であり、さらなる「円安」への圧力になる可能性もあり得る、と考えます。

だから、仮に、ドル／円の取引で、「ドル買い円売り」でエントリーする場合でも、短期売買に徹すべき、と考えます。

++++
++++

(2026 年 07 月 21 日東京時間 14 : 40 記述)